

参加：小森宮、橋本、馬場、蔵田、山崎、手塚、岡坂、岩（毅）、梅原、岩崎、水野、武部、吉武、賀来、藤田、多田（ゲスト） 以上16名

### 5月13日（土） 雨のち曇

4台の車に分乗し各車とも都内を昼前後に出発、一路檜枝岐に向かう。前夜からの激しい雨は峠頃にはあがったが、高速の途中とところで小雨にあい、翌日の天気心配される。今日は現地に入るだけなので早く着いた人は「アルザ尾瀬の里」で温水プールと露天風呂を楽しんだり、トレーニングに励んだり、それぞれ夕食までの時間を過ごす。常宿の「かわなみ」で全員の部屋が確保できなかったため、岩崎氏ら4人は別の宿になる。まだ水芭蕉のシーズンでもない、たかをくくって直前に予約をしたためだが、山菜取りなどで結構混んでいるようだ。

### 5月14日（日） 高曇り

7時半までに宿を出発し、御池の駐車場で総勢16名全員が集合する。岡坂・小森宮の両氏はテレマークでの参加である。天気心配されたが幸い高曇りで視界もきくので、行動には支障はなさそうだ。連休明けすぐの週末にもかかわらず、山スキーヤーやテレマーカー、さらにスノーボーダーまで数多く来ていて、この山のポピュラーさを感じる。我々も身仕度を整え8時過ぎに出発。積雪は御池で1.5mほどあり十分である。出だしは緩やかな斜面だったが、すぐに広沢田代手前のやや急な斜面にかかる。シール登高の人はジグザグに、ツボ足の人は直登し広沢田代の雪原にでる。雪原を横断し再び登りにかかる。熊沢田代手前の小ピークへの斜面はツメが結構急で、アイゼン無しのシールトラバースでは、スキーがズレてしまい登りづらい。ようやく斜度が緩くなり、1986mの小ピークに出る。このピークの手前は少し左（西）に振ったほうが、樹林がすいていて登りやすい。小ピークからは燧の頂上が間近に眺められ、振り返れば2月に登った会津駒がなだらかな稜線を見せている。ここから熊沢田代までごくわずかに降り、頂上に向けて最後の登りにかかる。快適な滑降が期待できそうなバーンをやや左にトラバース気味に高度をかせいでいく。出発してから約3時間、ようやく頂上の俎峯（まないたぐら＝2,346m）に着く。藤田は燧ヶ岳に登るのは初めてなので、スキーをデポしてわずかに高い柴安峯（2,356m）を目指す。かなり急な雪陵を登り、東北最高峰の頂上に立つ。眼下には広大な尾瀬が原、その向こうには至仏山がたおやかな姿を見せている。その左の方を見やると日光の山々。展望を楽しむのもそこそこに、俎に返ると、ちょうど全員が到着。12時15分に滑降開始。斜度も雪質も適度で快適に滑る。降りには意識的に左へ振って行かないと御池に戻れないので注意が必要だ。あっという間に熊沢田代に着く。この下の斜面はやや急でしかも樹林が混んでくるので少し滑りづらい。またこの時期、立木の根元は雪が溶け大きな穴があいているので、そこに落ち込んでいる他パーティーもいたようである。広沢田代を過ぎひと滑りで御池に到着。山頂から約1時間であった。下山後は各車温泉に入り汗を流し、2時半～3時頃帰路についた。

燧ヶ岳は御池まで車で入れば適度な1日コースであり、熊沢・広沢の2つの雪原や、やや急な登り、頂上直下の快適なバーン、尾瀬が原の展望など、変化があり多くの魅力を持った山だ。ベースが、ご馳走と温泉を堪能できる檜枝岐というのも充実度を高めてくれる。

### 〔コースタイム〕

御池(1515m) 8:15⇒広沢田代(1760m) 9:15⇒1986m小ピーク 10:00～10:20 ⇒

俎峯(2346m) 11:10～12:15⇒御池 13:15

※都内（高田馬場）から檜枝岐までは渋滞がなければ5時間程度。

<文責・藤田>